

平成 24 年度北陸技術士懇談会

総会・講演会報告

北陸技術士懇談大会の総会・講演会が、平成24年6月9日（土）にANAクラウンズプラザホテルで行われました。

●総会

今回は、石川県担当ということもあり、なるべく多くの方に出席していただくことを勘案して、総会後に研修会を計画しました。例年ですと約40名の参加ですが、今回は総勢74名と多くの方が参加されました。

総会議事

1. 平成23年度決算
2. 平成24年度予算
3. 役員改選
4. 報告事項

いずれも原案通り可決されました。

【総会の様子】



●研修会

■屋敷会長の挨拶

日本技術士会の公益社団法人化に伴い、今後の北陸技術士懇談会のあり方の検討や最近の技術士試験の状況等を話題にされました。平成25年度から技術士試験制度が変更されることや昨年度の合格率などについてご説明されました。

■講演内容

①講演1：「白山手取川ジオパーク ～山・川・海そして雪 いのちを育む水の旅～」

青木賢人 講師（金沢大学准教授）

ジオパークとは、大地（水、気、地）に支えられた生物、人や生活など資源を結びつけ、地域発展を目指すシステムのことであり、ユネスコが支

援する活動の一つである。世界遺産は保全・保護を中心として活動しているのに対し、ジオパークは保全活動に加え、継続的な地域活動を重視し、教育のフィールドとして様々な資源を活用することとしている。

世界ジオパークネットワークや日本ジオパークネットワークでそれぞれ審査を受け認められた地域が、「世界ジオパーク」や「日本ジオパーク」と名乗ることができ、現在、国内においては世界ジオパークは、洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島など、日本ジオパークは、白滝、恐竜溪谷ふくい勝山、隠岐、阿蘇などがあり、白山手取川ジオパークは2011年9月に認定を受けた。

白山手取川ジオパークは、石川県白山市を対象エリアとし、白山の頂上から手取川の河口までを含んでおり、行政機関や社会教育団体、自治会、商工観光団体、県内大学等28団体で構成される推進協議会が運営を行っている。

【青木先生のご講演】



白山手取川は、古くから白山と日本海の存在により、大量の雪を手取川流域にもたらし、大量の雪溶け水は手取川を流れ、手取川流域の人々が住む大地を形成してきた。人々は洪水とも折り合いをつけながら生活を営み、手取川流域の暮らしは、今も昔も手取川の水によって育まれてきたのである。日本の多くの扇状地は河岸段丘が存在することが多いが、手取川は存在しないため、河川が溢れることを前提とした不連続堤が採用されており、現在でも残っている。地域の人々は、手取川の恵みを受けながら、一方で洪水被害が生じることを前提とした地域活動や生活を行い、洪水という災害を受け入れてきたのである。よって、古くから水害に備えた減災対策を生活に取り入れ、これらが現在の旧松任地域の景観を形成している。現在

の旧松任市中心街は扇状地でも比較的標高の高い場所に広がっており、手取川流域内においても標高の高い所に集落が形成するなど、「島集落」が形成していることでも伺える。

白山手取川ジオパークの大きな特徴は、山から川、そして海までの水循環が形成されていることであり、これからが一つの地域でテーマとなるジオパークは日本初である。

白山手取川ジオパークは現在の生活に直結した地学や自然、生活、これらの共生を理解できる場であり、理解するおもしろさを広く住民に知ってもらいたいとともに、世界に向けての活動に期待したいと述べられていました。

②講演2：「北朝鮮問題を考える」

福山悠介 講師（北陸大学准教授）

北朝鮮は、一般的には「あぶない存在」と認識されているが、今後の国際社会の中で北朝鮮とどのように交渉すべきかという観点でも、現実の存在として向き合い、正しく理解することは重要だとお話しをされていました。

現在、日本は1965年の日韓国交樹立で朝鮮半島全体が大韓民国の統治であるとされているため、現在の北朝鮮を「国家」と見なせない状況である一方で、国際的には北朝鮮は162カ国と国交を締結しており、国連にも加入済みである。

北朝鮮の指導者は、1948年金日正が最高指導者として、1997年に金正日、2011年に金正恩が最高指導者となっている。1950～60年代に北朝鮮内で政治闘争があり、金日成が率いるパルチザン派やソ連派、延安派などが対立する中、朝鮮労働党のメンバーのソ連派や延安派の委員が処刑や変死を遂げた結果、パルチザン派が全体的な位置を確立した。そして、北朝鮮は元々共産主義であったが、これを越えたチュチェ思想（主体思想）を国の統治の根幹として独自につくり、「主体思想」を唯一の指導方針とし憲法の中で位置付け金一家が独裁できる体制を整えた。首領の権威は絶対的であり、全ての人民大衆は無条件に従わなければならない、主体思想を確立した金正日こそが後継者、首領であり、その首領の近くにいた人が思想を正しく受け継いでいる、などの思想が確立され、また、金日成が核兵器により軍事国家として確立したことで軍を中心とする政治が運営されている。さらに世襲は金一家だけではなく、金一家の側近や軍閥

係者においても世襲が繰り返されている。

北朝鮮では国民を①核心層、②動揺層、③敵対層の3つの階層に分類している。核心層は、最上位の層であり約700万人で、金日成に忠実を誓う一族で朝鮮労働党とその家族、パルチザン出身、朝鮮戦争で戦死した軍事やその家族などである。またその中の約300万人が朝鮮労働党員でいわゆる北朝鮮のエリート軍団である。敵対層は、日本が統治していた時代に日本に協力した一族であり、動揺層は核心層と敵対層の中間にいる人達で構成され、動揺層や敵対層は国の中で苦しい立場を強いられている。

【福山先生のご講演】



このように、現在の北朝鮮は完全な階級社会が形成されており、金一家による統治、エリート集団としての軍部、支配者層の世襲が現在の北朝鮮を作り上げており、この封建制として国の構造を認識すれば、北朝鮮を理解できるのではないかと述べられていました。

これまで私たちはテレビなどを通じ北朝鮮の話題を耳にすることはありましたが、なかなか理解しがたいことも多く、今回のお話をお聞きし、北朝鮮の現況について理解を深めることができました。

講演後の質疑応答では、昔は中国やソ連が北朝鮮に対し支援を行ってきたが、現在は中国がほとんどである。北朝鮮に鉱物資源（レアメタルなど）が多いとされているが、北朝鮮自体の技術が追いつかず、中国の企業が参入し、企業や金一家が利益を得ている。また、金正日が亡くなった際、ニュースなどで大泣きする国民が放送されているが、国民は脱北者を含めてマインドコントロールがされている、とお話しされていました。

■ 交流会

研修会後に講師を交え開催いたしましたが、こちらの方も約45名の方々に参加頂きました。

講師の両先生を囲み講演会で聞けなかった話を議論する方もおいでました。種々の分野からのご出席を頂き、また久しぶりにお会いになられた方々との懇親も深められ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

今後資質向上のため、大いに交流を深めたいと考えています。次回も有意義な研修を企画いたしますので、多くの方の参加をお願いいたします。

【交流会の様子】



文責：事業委員 平澤由佳（石川）